義経記　WB2-10　06-001　国立国会図書館

義経記巻第六目録

義経記

錦色書房

1971-5 国会図

義経記 WB2-10 06-002

国立国会図書館

義経記第六

ぬくのぶ都へ志のひよりるす

さてしを依敬男ら兵衛ハ十二月廿三日ハ都ハかゝりくひ
なれとりは思ひよりさらくちう母へ刺皮の御ゆ
く志を弱きるとさまたまへ人まちくまゆれだ一定を志
らぎあるひハよしの河ハ身をなぎのひかうとをゆの
都ゆるひを小屋ハかゝるまくゝ君ちろくへ下ゆ都ひかう
とをゆこさくをさぐめざりかれハ都ゆく日をくるとかう
まる程ハ十二月廿九日ハなりまゆ一日ゆんしをん
やまくくまべ身かくをあくて年乃うちをゆふたるを
なり明るはなるハあらゝ海のとし立へるたるのたし
めゆくゝ元三乃ぎし記なるどもるすよろしからひハ御くあ

義経記 WB2-10 06-003 国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-004　国立国会図書館

つねは又日を女はあまてら行きまいらせくださるとも六日のあかつき
来八一寺出んとぞし給ひけるに袖とこの袖もじおほやけな
つねたのまあくハまこつまのちぎりひとへにかゝるひわさ
ちもなりける天さし乃むとめみくやまかんたのかしこまる女
かたりけるぞおそろしたるが常盤家綱出くくのちぞ系のち
うへかたちみ中をの五条しかたれおもてしめしくかへて
そめくだりて今の坊ことゝ申さて女はよろこひものすわりおもて
ひらへくどとおもひてひさりそうけたちて名きしせくるかりゝ
かくむせるうしくとまくて茂乃ぞんぎんは入てらいんこ
うらうぶひおへうきもすておもひおてきんとおもひたら
かくつまたま一だ又てう毋しの立うめんよるくたりちゞりゝ
がりへはうひとぞ庭りたるはそなみちりて母乃かくへぞ

ゆきたまふ常盤なにだし一さしゆうの京よかくしそさぶらひくる
三日ぞそろしたまふたるぞ後のちのあてくさしやさ
たちのびさそてゆるり八幡川乃古細なし判官乃らう
ぞうさうり是は若乃とも申ものひとしのといくさはうち
ものさまてくだときぬる廿九日乃それがよちまれかわち
おほとかんちみくへ下らんと出ぢ下つまくのちはあへ坊
ありぬとくらうへのゝ旅衣とまさくごさうすとらぞわ
ぐるさとも思さしそれたしたがりかうむせるりくのあさ
乃ぞんさんは入くらんおりともの花へもそぞ申たる
かうちらう三日たちぬゆくおちまそ乃るすあるまだ升く
とくをのもいちとぞそもうとまし来をのおたれまた
つまらきなどくりめるまいまうりまりきろゑあみ乃とまうる

義経記 WB2-10 06-006
国立国会図書館

義経記 WB2-10 06-007 国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-008　国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-009　国立国会図書館

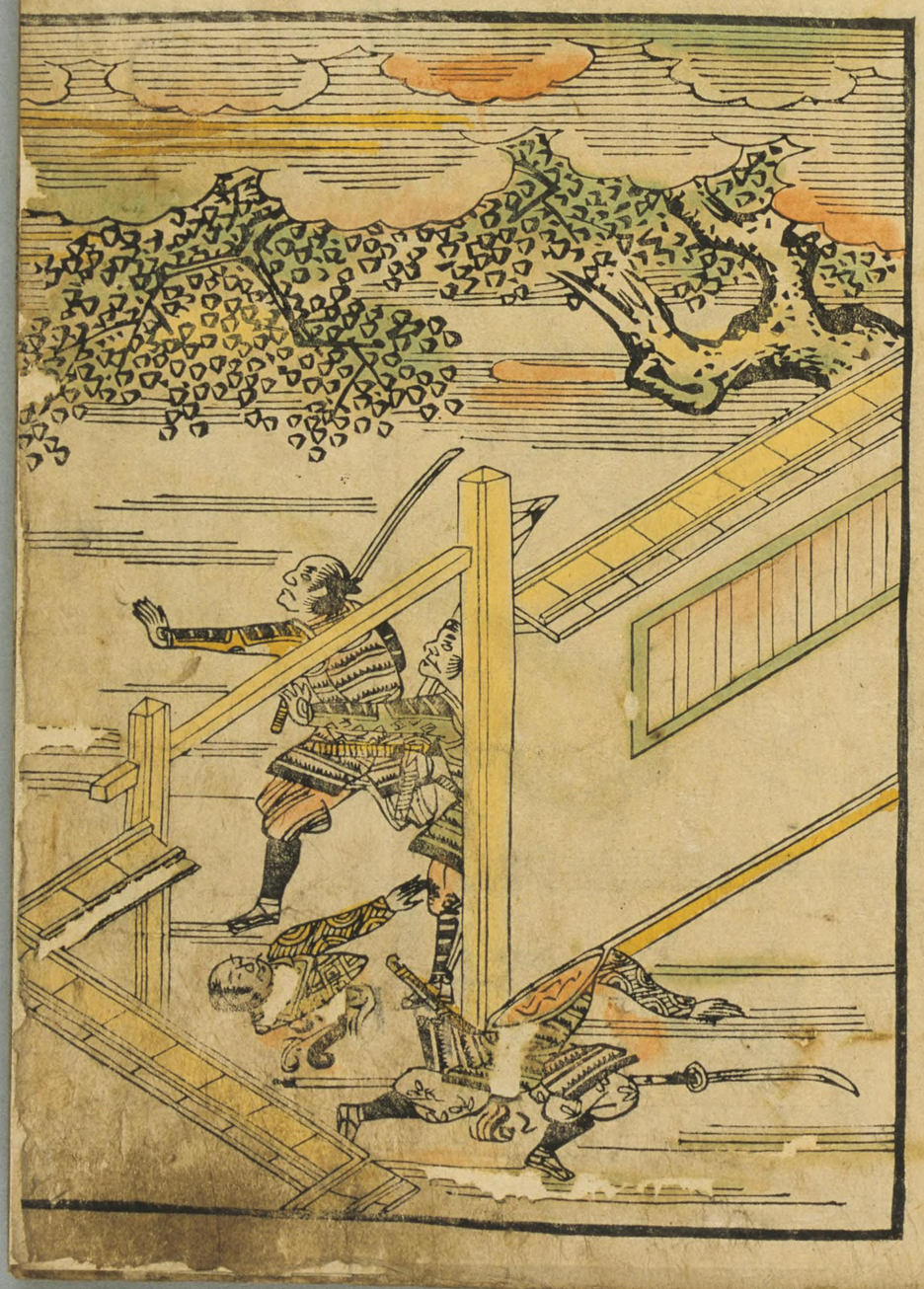
かゝらんのちはさよが大将のうへをもやすからずおほしめし
へさせ給ひて後(のち)はおもひよらぬ事のさたをもめぐらさせ
おはしまさばまことに御ゆかりの人々もよろこびこそ候はめ
ひとしきりの御ものがたりまうしてのちは中にも御うら
ていかにぞや、あまりに御いそぎまうしたりければ
いまはすでにかたちなし。後世(ごせ)のことはともかくも
きのふけふまではかくとも(しらざりける)御身のよろこび
まうくるまゝにいとゞおもひまさりて、やがて御かたにまうしけるは
月日にそへてゆくすゑもたのもしくおもひまゐらせ候へ
まうしければ人々も世のすゑのまつりごとをもうけたまはる
今とてはたゞ平家のみ御心(ごころ)にまかせたる世なれば
さらば御うへのみこそたのもしく候へと(まうし)て出にけり

それよりのちは学問の事もうちわすれ、今はひとへに謀反をのみぞおぼしめしける
謀反おこすほどならば、力つよく、はやわざをせではかなふまじ
あさゆふ(朝夕)御身をならはさせ給ひけれ。東光坊(とうくわうぼう)も御心をぞそへ(まゐらせ)ける
僧正が谷にかよひ給ひて、夜な夜な天狗のすむところにてはやわざをならはせ給ひけり
かくて月日をへて、平家の人々のきこしめしけるは
まことに源氏の御すゑは世にありがたきものなり
かゝりけれどもわが身のうへの事はかくしおほせたまへ
まづ兵法をもならひ給へ、謀反をおこさせばやとおぼしめす
きこえける人ありけるに、今は義朝の御子のまゐらせさせ給ふ
ひそかに人々のくちのゆゑにまゐりて、御ゆかりの人々
てうふくせさせまゐらせ、謀反をおこさせ給へと

しゞ矢かさねひらせしもちまきひきうちしくかうぞう
夏乃二百よ身をそしと行ゆはおひもきうさはとし
よせたり先陣を大庭よりまゐ入て後陣ハ門外よひかへ
たりえまの小四郎よし時ぎりとのうちをこゝそ母ゑくや
されかうたゞさてなし四郎兵衛とくものうちまじきそわ
らはれ出給へ犬物笠ハ小家夏かくやハえまの小四郎より
時と云ものなりぞやく出給へといへだゝのぶ志をゆく
えんの上にはうらうがぞ志とゝのりとうもとけされとしゞ
矢さしくさしもげやしかうハえまの小四郎にやべきの
ありぞ河もれ出へんたちハかうを志りぬもぬものかかり
がん平治乃うれせんとやしきぞへとくの出るのなれハぞいり
まも出ゆまもぞれをなしゆさ海よそふうまひしが

志をそれはハ小べくをなしぞれがしと出へんとハまたくし
いくさ母くこそあまぞ母くう夏もさ海乃ことどの出来
なぞ。あらうが君も出兄弟ぞがしゞとへだ人のざんがんは
よりまく出弟不和ハ女のふとゝ兄ぞざんがんむ志
なまだ。おぼしめしなれしやまらん時ハおもれ一乃まづら
ひうなといひをもてしぞ。えんより下にさんでとりぞあまを
ちよ云くさしけめくさんしく母いる。志まの小四郎が
中間さ紀うけくる。河ふこきおなし枕にいふせたり。こき
まゝをおゆをかまだ。いけのひがしのもとを門外へむかそ。
あらしまたのもれちうどくぞ。むらめしくぞひきよかる。
ごちんあまをしくさしなしやえまの夏ぞ紀ハあきこす
きをあらばしそ。てきさ一人なりぬしあもせ給へやといは

義経記 WB2-10 06-011 国立国会図書館



きまりしぶさ紀はほうぬきくぶそ乃もとゞかさ
おとしがたるをとしのうびくおれたるやまゝ
さにあつらへてぶくくはいくふとゝゑうしあるしわりたる
をきるにはとうしをそのさたる屋うまをるれをのうぶし
かたるをもそしてうぶだ也よそへて東国まうくらまんを。
まうさをのどもよ紀かたるがあしきうとはまんるのをよ
しおしぬいどまうく拘(かつ)べきとうくぞしのうひてさやよさしく。
ひざ乃下よをしかくいくぞさもと乃にをはうこてゝ川あけぶ
をふぎりてたうの中よいまく腹(たう)をはうこ出えん乃上
よさんくふおちしぶよこぢ迄(まで)も川刀をだかくもろぞとそづ
うをんもうへさしあこぶやはおりおほ乃下へはきこ入くぞをむぞ
とくこゝしよけをなくてぶさりよまよ念(わん)ぶ川ゆてゐたり。

義経記 WB2-10 06-013 国立国会図書館

義経記 WB2-10 06-014 国立国会図書館

とをりかつぱしかるべきあるべき文治二年正月六日の居の刻
に御前に人をいかしらどしく生年廿八ありくさせよかり
あるのふかくひかぬくらへ下るなり
和泉殿乃御本伊豆国乃住人ごきの孫たるとゆゑの。
四郎兵衛ゆゑ志がいのあらりよ立よりまくぐびをうれをと
し六ちらに打来しぬ後をとらしく東国へ下るべきと
そゆゑしかるぞ世にてうてきの乃ちのぢくたんよりきらべ
来しそ大路をまとせぬ世ハよりまとそがてきよしけれ
かう御来をや別しくまとさるべきくひなりまとぐさやう
より給ひまかれだ和泉とたりとくまとさはれ四郎兵衛
すきの乃せいをくしくぐびを打をてくれんとうへ下るべ正月
廿日に京を出しく同しく廿一日に下着しぬくらの殿のぎ

むざんに入くぐむかんの乃ちのくびをくはとゆゑれハぬ
くの国ゑまぐしとゆゑぞれ御前あり刺殿乃らうど
うさとう四郎兵衛とゆゑまくはとゆゑれハ付ゑ
誰と給ひまぐれ和泉とぞゆゑかるまくハな
かれどもぬ志うし給ひけるとの御きゑよくなりぬ志がい
乃ていさいこの時乃ことだごまくとゆされ御ハが御く
ら殿あたまうの乃ちが人とよはんをもしだや九郎に
御きゑうまうこう一人としくを給ひあるものなけまハぬぐ
ひらを見るとゝ給ひてくとぞ御くのさふひ乃申れ
えら兄弟をだし付つらめぬいるまだ東国に見れどのち
あるらんよ乃ち百人をめしけるたんよりを九郎かんさし
をふりと志まくぬまとゆゑまけるへだ大国小国ゑ志ぬ

義経記 WB2-10 06-015 国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-017　国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-018　国立国会図書館

十五

義経記 WB2-10 06- 020
国立国会図書館

義経記 WB2-10 06-021 国立国会図書館

義経記 WB2-10 06-022 国立国会図書館

義経記 WB2-10 06-023 国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-024　国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-026　国立国会図書館

なり乃ゆぞうとの男をしてむかんの人にくらしたりそ。
東国まぐくれくださまはゆるなんとのがまてゝゆらんなりそ
有定なりぎまはずにゆしへよりされにたち来らせずぞ。
らたまに来らせんぞれにたらせ給ひはたゞ御ぞひをとふ
らひ来らせんとぢきりやしくはしにされぞち来らせく。
そふらたれ来らせんしそよろこび入くはへおまを持御堂
のはまへにをらせなひ御国にかりまはたんたひことに志はい
ぞしぞせをそふらひくなりはへそく九てうの今きをもづ
しなりなへたぞ東山乃上人なくくうをとりまなひなり東
山乃上人おんち乃錦の御袋より一巻の法花経を取出しくを
んじ也房に来らせなりぞぞひにはたらこを取りしく上人後
里なひなまだぞそくこそ六条にそくなりていとゞ波に咽なり

義経記 WB2-10　06-027　国立国会図書館

義経記 WB2-10 06- 028
国立国会図書館

おきまぎらくおふさうのせきをこえ[illegible]をの小町がき
見なれしせきちをふしたがこをんむやうじをらゆてまなな
したほうちでのたゆきぞせこのうちしふこまうしの
ぢしのちうもちうくなりぬきまんとしれどしらきひけ
ぬよ都乃うこをうつり見くゆをだ屋うく都ハとをく
なりふかりをとまはきけど同よハこぬをのさりちまか
さこまくりるかぐこ山いぶきのぐをもちくるうぞ白ハ
まの[illegible]の志やくまとゝまりまけぐ乃日いこたし
くやさひかんぢやうじやふこしをうりくの世なり都を
浜出の時うくこそめさせ来らさべくひしうどもがまくら
のやすしこちたぐうりまくぶるを来らせひたんきろふくひと
ゆかれだとくこゝちの程乃浜なきけこそよろこびへくひ

へと給ふ里うつこそあれなる里ハ都を日ふけぎそ下ろう
かどよ十四日ようまくらふ[illegible]の[illegible]の[illegible]
い里なりうくぞ又日ハかまくらうまくまゆへぞおろ附さくこ
よゆうろハ浜いこりしくゆとてがぬくらまくまゆへきひけ
里ハいけゆうぐゆさぞたひへきなれだこそ今出仕けうま
けりひ今日浜がんざんあるへきことそ杉ほしひぬとゆを
里だ杉ふをゆくふるしさくまんさんよいりぬ
さいぢやうしをも都ひくぐそうのむ[illegible]をゆしくそひへ
と杉ほせう里かれだ[illegible]のほおまへ来りけよ
しゆとふかちちうをめしくかふのうちよさくこひ[illegible]
くべきうのあうぎふらひともめせと給ふ里かれだ都くめ
志かうひさふらひよハ里しくぞぞぐのゆきうひよしもを

義経記 WB2-10 06-029 国立国会図書館

さてこの千ひろだにのもえがき井の名残ぞよそのうめのこやの松ならぬ
みどりもとろろおぜんじゃうるりをやまのふもとをめぐりゆくみづ
のそこひもしらぬ淵となりてとろとろ水はやくしてやまのゐ井のした
そこを山ぶきおのおのうつしてのぞきこむ所の上にはもろもろ
とばえびすすがなどもうろうろとしてまよへる
[illegible]

義経記 WB2-10 06-030 国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-031　国立国会図書館

義経記 WB2-10 06-032 国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-033
国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-034　国立国会図書館

附をぞ天よ二乃日てらし紛ちぬ二人のちくまうれし
とこそやゆへどをぞかてうをはこさやうぶいもふ如ぎり
さゆへかとそいひ乃り来らせし如刺皮をむまきはさ
ふえの人なまぎぬ法ゐよ世ひもとち紛ちぎぬ国
のうるところなく夏一人しくちさやうしぬふことこ
まハさくこがいのり乃うんれうもうれよわらもやこれ
よりもかうをいかにさうをんせしうをわしをやべきの
ゆちぬがこ乃ごとくをら忍ひのものをれをも
もうちぬなふの忍さうあるべきいうるうんけるぬり
ぬくゆぞどくくくひをもしくうまくこ夏のいきど
をりをやもめまりすへ屋どのうるれなくの給ひくりく
とるさ給へハんあるさゆらひ世神をぬらさぬ人をすし。

義経記 WB2-10 06-035 国立国会図書館

義経記 WB2-10 06-036
国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-038　国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-039　国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-040　国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-041　国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-042
国立国会図書館

義経記 WB2-10　06-044　国立国会図書館

そむなしくこそ三神お雖しらわこさまにそれ
たしかろぞけらぐ一め見くわかんうやとくこちふしから
志げうあまを見くいとこんをさえくおもひから男
なうゆなうとそへどをあらへ祢だぜんじのいざれうな
を見まだ男なり一目こそわらんうやとくさぬ
をうけきくふしぬ屋こまくいうなう十わくえぎやく
のものごまく人男は生をうきなぐら月日のひう
まをもさらうは見なりぢしくむままく一日一や
をぐにをまとこさぐ屋がてめいどふう屋らんこそむ
ざんなまなの薬うぎらわるとなまだせをもんを
をこうむへううぢとおもへどもいさのなぐらまうまの
うあしさぞやとく神をうほよをしわてこそなきね

さう義経法雅和ようこまるまくゆうるさ法さんの
さうをゆせとおほせかうふりゆるぬ今来りく
ゆゆたんまるわゆゆうまだぞくことのぐるまじきる
なるほもとくくとそいひかろぢうい忠来りくはよし
をゆうろかまだおぐらの新こうをめして義経が
義和はしづくさんしうぢよりまをもがかぞ来乃るは
のりくゆきゆゆのもぬまくこしるへと給うまえれ
だきまつほ法るゆくうろ出義経乃宿和は来りま
てぜんじはむうひくうぬくう義の法法うひふ来り
くゆり人をまう忠ふくまくしせ給ひゆりしきにし
めしていぐきうめ来うをまとの法経まくゆとゆ
かまはおもまはうれきまはきはほうなぎはまことゝ

義経記 WB2-10　06-045　国立国会図書館

ぬべきうやわやをきへうしるへと給らましてきゐる
おとに男子なりけるとくうしるへとよそあるらめ志だ
しさいごの出たらせきをんとゆされ今まだ新しう
いたまなるほどさきとがあれよわりひかるかんよれ
くまちかるがかくてんよりてうるふましとなりひ
ことくしくは法出たらも入はまじきくぜんじがい
ごきたるはうだひとりまれよりきこゑ御の
まゆみのちゐまちせいくからぜんじうなし見かるを
なぐらへてこせ給へとゆさたそひがるのなるめ今一
度いとをるれうかをこせ給へとうなしこゑまだぼらん
じくきゆしわりひうさるりのひなんとなきけな
きくしきゐくかをこそへごそしと給ざうぜんじを

ざうまをざにもちきあへどうまとぎぬをうりがもそ
のうゐおうらぐしくぐらゐ乃うへぞくらかりの
教れをぜんじをさつひくおとまはきてそくらう
かうぢりうをとりにしたひかまどもかりがさいぢよ
かけうちざんのまうまるりさくさゐくまいさあと
まとゝめかれば出けがほさとのくちにさゐまふし
てぞかるしきうぜんじをちゐよゐづひむまゐ
とをさづぬまどもかんのしがいもすしぢんじやうの
らぎらしそさとくなるらめむすしきさとうを今一度
見をなへとうれしけぐ給ぬしへおゐこうる和
まいるせはゐちこまはまさこにゐもゐまてくるやも
はまこあそびかうにあゐくぢんのりうちにこのく

がやとなれたるなやまいのあとさへだだにふきたんりけれ
ちゑどもほのみこぎたるのさいをくのしよしそすばい
きはつきといひくるゝ義経が下人にちまくたんれだ
今やのぐさはがむ義の屋うなりけるお人のいけし
かいさきに川を屋くぐむなしきまとぐこをうづ出しにい
そのぜんじまこせられだとしまきこうきぬのいろ
ちうちゑどもおとなきまとうことなりまそしかるこそ
かなしかれをしやしくとも奴のまとなれわたくうなる上
よぎぬのけさをとらしきこくをれたりかまどもこ
やうきまたそくたんしうだぞりくかへつまそたくあと
せくうなしまませんもやしけれぬしとおもひてぞく
ゆうげやんとくちぬのいさごをゆくかりられども

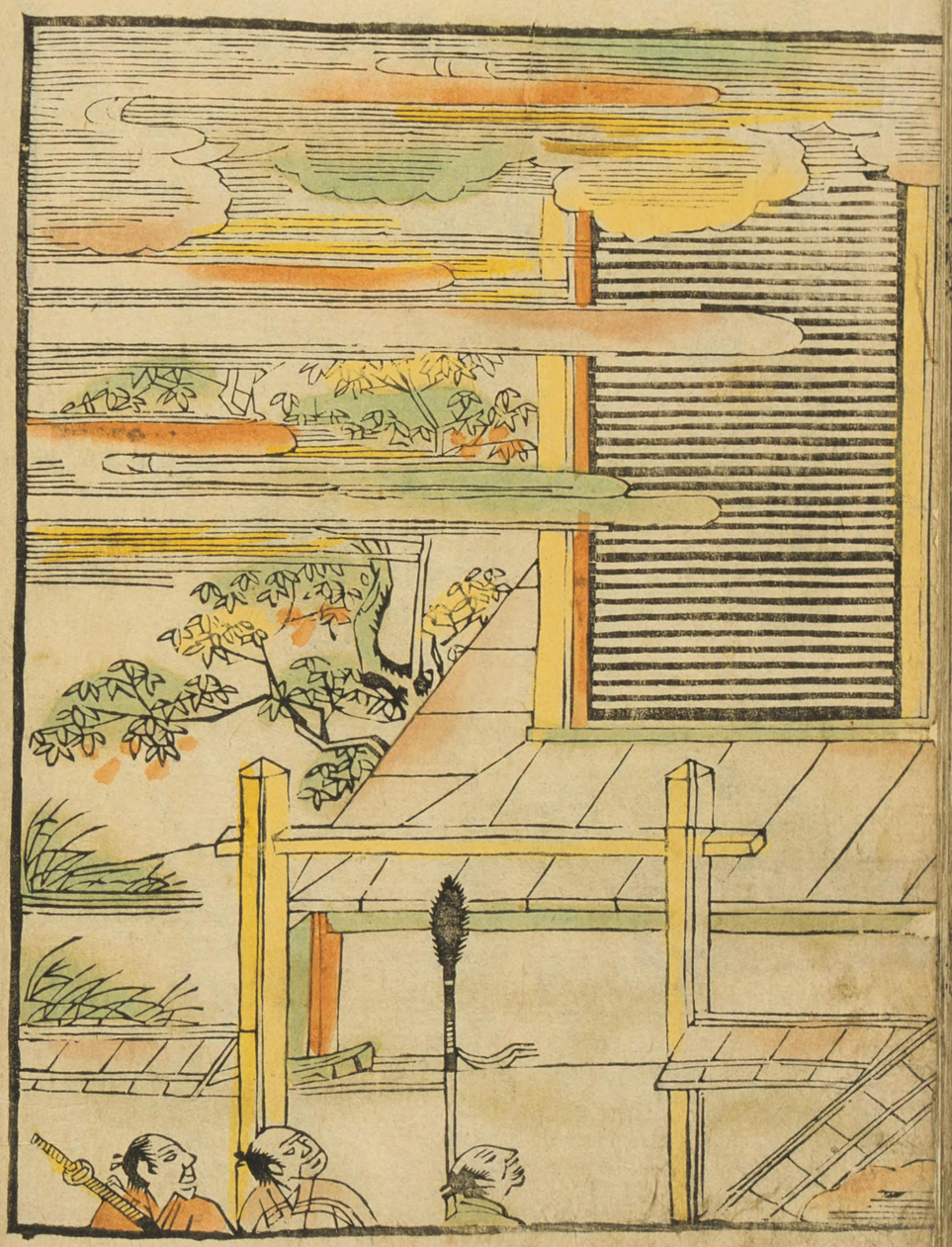
ちゑわさまし来うしるのひづめのかゝふにとくいてゝ
ちかれたざしゑひろきちぬなれどもまそをくべきにもな
しぐじなしきまとうこをいこきてゑ義家よぞかへりかぬ
ちげりゑをとけ知生ゆくろものをべごくなく男は
そへくかなしこかりわいしやうとくおやのなげきさこ
とれけこふうきなすあくゆものをとて義経がちゑひ
あくお人の葬送ごきぬのこと屋のこめよちんまうせ
られかるぜうもしゆゑんのひがしようけこそうへらから
うゑ抱うきうゑくしよ一日まそしもわるべき屋うなし
さくいそぎこうやちへのがらむとぞ出たちかる
ちげりわうこや八幡宮へさんかいのるす
いそのぜんじゃかるはお人のるすをおもひまうをこうす

義経記 WB2-10 06-047 国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-048　国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-049　国立国会図書館

義経記 WB2-10 06-050 国立国会図書館



義経記 WB2-10 06-051 国立国会図書館

法ひにくまへとゆさましうれ。何乃いうしさにまひ
ひべきとそ法ゐよまはもとゆさだ彩鈴かひるさ
にくらぴうぐまべき強にくらいはまべきと給らまれは
桃原ゆくろきくどうさ忘りんとそ都よひし時も。おな
夏ぎちよ法めけらましものまくひへ志くも京まらんへ
にくにさまくひかれは仰付るべくひはんとゆかれだ。
まをつゐめせとそめきれかりぎ法さ忘りんあうのづ
よひかるを桃原法まてぞ来りかる。強念夏給らま
かるを桃原もひくいはまれ共ゆるすをごまをせぎ法
面ん行くまうしてまはせよやと給らまれだかる
なんぎ乃法法ひ北。法強まくごにも華給はぬ人を。
それがしゆしまばとそ華給はんとも行はしぎかる

法強こそ大らすなまとゆひまづらひ。いそぎ家やまへ
まさいぢよよゆかるきかぬくら夏よりい刀しまし
を取くこそひへがらはらを法法ひまく給らまはは
ごにもぎらい給はぬ志げかを。家らよ来りてまうま
ちせよと給うふりしろこそ秋程がこめにを大らすに
ひへといひかまだ。女房ゆのくそまは桃原よもよるべ
からぎぎ忘えんのぜうまもよるべからひ。情ハ人のこめ
まをあらだこそかぎ時かぬ中男まくぎこひるすきさ
さのふぎいまく華をまひすへとこそゆつらめ法身そ
もさこそおはせんぎらめごさぬくのくましを用ゐ
志く城夏のまへ行くそふらひなる事うにく聞く
こしらへまうしなんよなどうかなすぎざるべきとこにや

まげまいひかう。秋經がさいぢよとゆへハぢだのまきをが在
家乃附まうをこらまし家まらハのむまめ小松との法門
ま次泉殿の法法が見そくおとなしき人あくそ有今
家おうち伴殿乃法長ま中をぬかひく出給をこらしの
見ならぎおかぬ中を引まきらまくぞちかんをとがん
とおひ伴豆へ下らんとしかるを小松殿まをけ見まなご
まをおしませ給ひく年とそまらし神となりかれどを。
おまへ給見よとく秋經ま見しそめくぬがひのんざし
深うりかう治承ま小松殿のかくまさせ給ひく後ハ粮
むらなかりかまだ。秋經まぐそくせらまく東ま下
まかり。年久しくなりこまたぞさまが狂云綜殿のこハ
ゆまもいまこまれざらまかれハぞうさんともやましとや

おひかん急ぎ出こら殿法が家家ま行かう。秋經ちんさ紀
ま行くいそのぜんじまいひかうちぞ。此程なふとなくおま
ぎまひへだおろうるうとぞおぼしめされけんぞ。海のや
志ろへ法家殿まくまこらせ給ひけれ程まぎれもめ
志ぐせらまぞ。日くの法秋家まくまこらせ給へ。精魚
なくてさうるひがくけるおこへ家りけれ。ハ無しお
それ入くけ。秋經がさいぢよも殿のちんふくけ。堀殿の志
ゆくあまくまりてけぞまし。せんじよきあうまま
させ給へとゆくぞ。殿男ハ海ろていまそてなしくがこらう
まうくまくぞけかう。いそのぜんじ志ゆまけしをこれ
だざ志もん乃言ことまひ給ひ給ぞこまくしひけ有
女房の法出まぐらしひもよらまけまくの法を

義経記　WB2-10　06-056
国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-058　国立国会図書館

義経記 WB2-10 06-059 国立国会図書館

べきものやあると候はまじけれども、この小ぢんにてしばしかくれ候はゞ
とけ山のそのみんの所にんよへ一堂みくはれと申ければ、
いかゝちくろまき山乃みなんしんざい一乃へいかうのかくあらしおぼ
しめしらんばかりそめなるましきものをとて候らはまじければ
信(ただのぶ)ともかくもりんじんやくせもらまへしきとかくさいにとよ島
山よりさ細(しさい)とは信にかくはとやしかまはで島山まことの見かう
ちかうさせめさらくぞりさまかんにきおいくへいくろめのき
かうひ乃しのうちからすうひやうしわかせてくしげうく
弟をさくらんさらえぞくし候りおもむしきかくとうよ
てぞわらんぢとをおりらしひつ候よしてひ来るべき
まりしとや信ひのつぶさへ乃づくかうはなやらうせのく
まかせらしくらいざおとんのせいりはらんくざのたちのよ

ちくさ乗乃よいりんまさえ志りしとさんのかう羊(ひつ)の皮(え)刀
てんかりさうはいこのむかり乃そのちるをさきあんせてくだん
乃まさきまえひかさせてぼう女乃ぞくし女うろかふさうしや
さうんとつのまへ山廻廊(くわいらう)乃天井(じやう)よひざのよいろがしたくしは
ちくぢりのぐくうりと給うきさら擬宝(ぎぼう)珠(し)八ちんくとのに
うちよ山井と多のさいうんさそ志りげはんつまやうとあらて
ほくつまさうごろの乃きくかうこおろろ欄(らん)干(かん)ふまよくかく
のおやと入らく狭(さ)間(ま)がらのさりし夷よありさせてほくさの手(て)足
ま志ろうひくものまあるてのすく座うふわきせてくだらけ
山がら納るうがたくきと山八まくの縁よりさし狭の杵とさしの
ぞきさく引しくろつて志くうえ生てさむとひまさ太刀よ白まさ
ひとく矢つぶ蝋(らう)皮の緒つきさくわ志がりのうらくしとさ刀

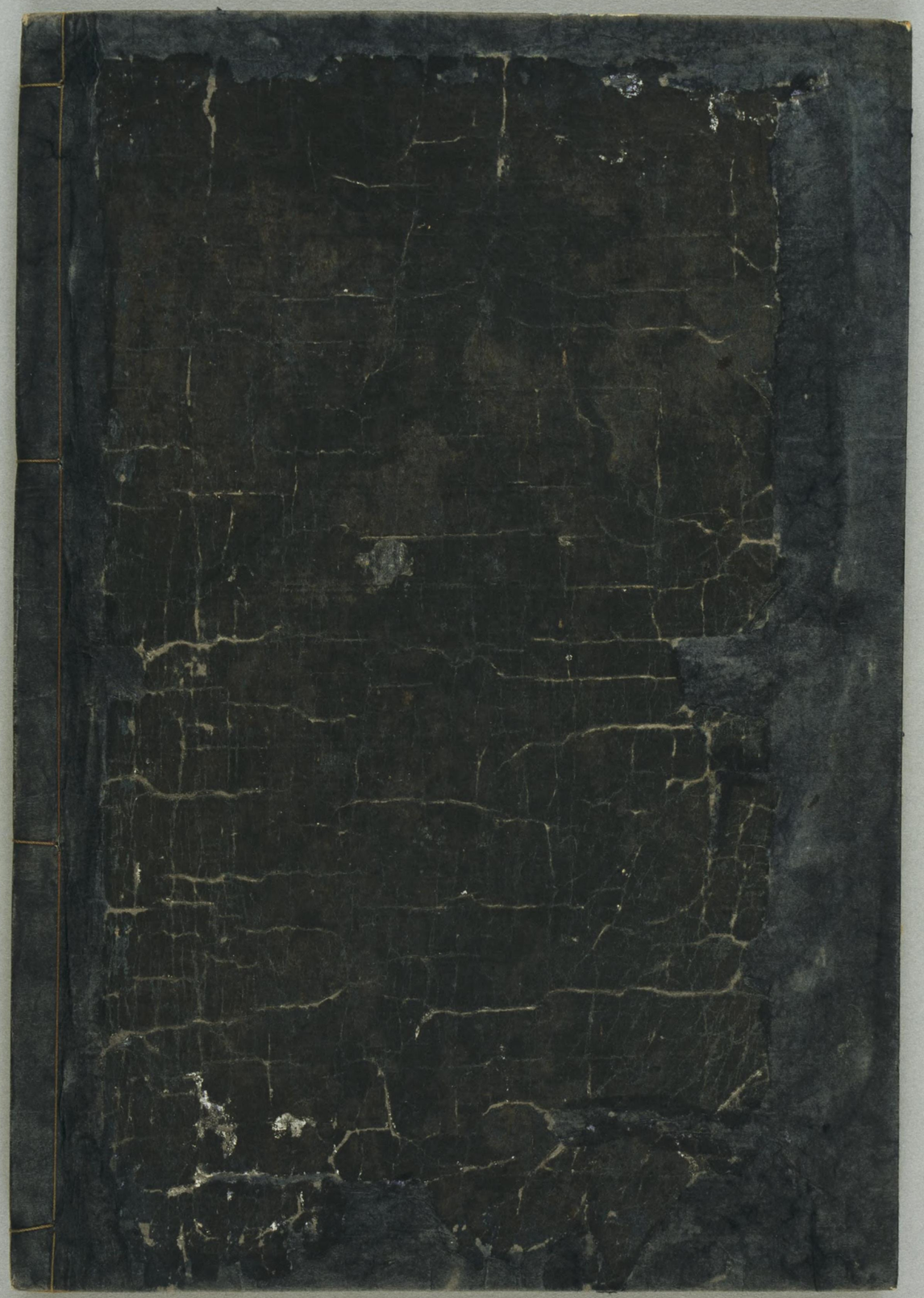
義経記 WB2-10 06-061 国立国会図書館

義経記　WB2-10　06-062　国立国会図書館

義経記 WB2-10 06-063 国立国会図書館

国立国会図書館

義経記 WB2-10 06-064 国立国会図書館



義経記 WB2-10 06-065
国立国会図書館